

# 密着取材!

# 消防24時!

## この地域のために 守りたい人のために

七尾鹿島消防本部は、七尾市と中能登町の範囲で、市民の安心安全な生活を守るため、火災予防や消火活動、救急や水防活動を行っている。消防本部1、消防署2、分署1、分遣所5の組織で構成されている。また、消防団は3団があり、その配下に各地域で構成されている分団29の組織がある。

前身である七尾鹿島広域圏事務組合消防本部は、昭和46年に、旧七尾市と鹿島郡6町（田鶴浜町、鳥屋町、中島町、鹿島町、能登島町、鹿西町）で組織する消防として誕生。

平成25年3月、七尾鹿島広域圏事務組合の解散に伴い、4月から七尾市が中能登町の消防業務を引き継ぎ、現在の七尾鹿島消防本部となった。

現在、消防本部と消防署には、消防長以下145人の消防職員がいる。3つの消防団には490人の団員が在籍している。安心安全なまちづくりを指す七尾市にとって、重要な組織である七尾鹿島消防本部。身近な存在である消防のことを市民の皆さんはどれだけ知っているだろうか。「火事のとくに駆けつけるのが消防」と思っているの

では、それは消防署の代名詞であって、業務はそれだけではない。例えば代表的な業務に救急業務がある。「救急車は病院からやってくる」と思っていないだろうか。実はほとんどの救急車は、消防署から出動している。

この特集では、市民の安心安全な暮らしを守るために、日夜、訓練やパトロールなど、さまざまな努力をしている消防士や消防団員を取り上げる。そして、知っているようで知らない消防署の業務や、市民が見ることのできない消防士の24時間勤務の実態、地域の住民で組織する消防団の紹介や子どもでも楽しめる消防車両図鑑などを紹介する。

最後に消防長と第1・第2消防団長の対談を取り上げ、消防の現状や課題とこれからの防災の在り方などを語ってもらった。

近年、私たちの想像を絶する災害が発生し、消防署や消防団だけでは対応できない場合が生じている。この特集をきっかけに自分自身でもできる防災や減災に取り組み、消防士や消防団員、そして市民の皆さんとの互助の関係を成立させ、災害に立ち向かう環境を築いてはどうだろうか。